

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
学校への営業件数 (プロセス)	件	300	163

未達成の要因と分析	<p>コロナ禍において、外部から学校への訪問が難しい状況であったこと、8月までは団体見学の受け入れを中止していたことなどもあり、来館の働き掛けを自粛していた。 また、例年であれば、校長会において博物館事業の紹介を行っているが、これについても校長会が中止となったために実施できなかった。</p>
-----------	--

今後の改善方策	<p>絵画コンテストの作品募集等、まずは直接の来館を伴わない事業の案内等に赴き、訪問が可能な学校については、博物館の団体見学に関するガイドラインを説明し、協力いただける学校に対して来館の働き掛けを行う。 また、近隣市町村との連携に取り組み、域内の学校へ集中的な営業を行うほか、来館が難しい場合においても、出前授業とその成果品づくり・展示などの取組みを行う方向で働き掛けを進める。</p>
---------	---

〔2〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
弥生文化博物館入館者数	人	24,500	14,880

未達成の要因と分析	<p>コロナ禍において、感染拡大の防止を最優先させた結果、入館無料の日としてのワークショップイベントを秋冬春ともに実施できず、大きく入館者を減少させた（約3,750人）。 同様の理由において、過去実績で動員力のあるミュージアムコンサートを全公演中止とし、人気の木曜大学も回数、定員を減らしての開催となり、約4,800人の減となった。 さらに、小学校等の学校団体受入れも大幅に減少し、約1,100人の減となった。</p>
-----------	---

今後の改善方策	<p>イベントや入館無料の日への依存度を減らし、企画展示、特別展示、ミュージアムギャラリーの内容をさらに充実させることによって、展覧会自体における入館者数の増員を目指すとともに、エントランスホールにおけるミニギャラリー等、3密を回避可能な催しの充実を図る。</p>
---------	--

■ 目標値未達成の要因について

〔3〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
近つ飛鳥博物館入館者数	人	57,500	55,943

未達成の要因と分析	<p>コロナ禍の影響を受け、9月まですべての館内行事を自粛し、下半期においても例年より行事を減らすとともに、例年であればひとつの展示会で2～4回を数える講演会の開催を冬季の1回限りとし、かつ参加者数を定員の5分の2程度に制限を行った関係で約1,500人の入館者が減少している。</p>
-----------	--

今後の改善方策	<p>昨年度、大阪府が文化庁の多言語化の補助金を用いて整備した館内のFree-Wifiやタブレット端末等を活用して見学補助を行うなど、インターネット環境を利用した新たな取り組みを進め、展示の魅力を高める。また、展示室内の仁徳陵古墳模型にタッチパネルを設置し、模型の表現された情景に関する展示品を紹介・解説するアプリを導入することで、展示への理解を高め、満足度の上昇を図る。こうしてリピーターを増やす努力を行うとともに、インターネットを活用して効果的な宣伝を行い、新たな来館者を獲得して改善していきたい。</p>
---------	---

〔4〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
日本民家集落博物館 入館者数	人	32,500	20,370

未達成の要因と分析	<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止のために各種催しの再開が秋以降となったこと、年明けに再び緊急事態宣言が発出されたことで、過去3か年には見られなかった入館者が1,000人に満たない月が4月を数え、特に、過去3か年の6～3月平均に対し、遠足等校外学習が約2,500人、外国人が約1,700人、子どもたちに自然体験学習等を実施するジュニア自然大学や囲碁教室の利用が約1,800人減少するなど、全体にわたってコロナ禍の影響を想定以上に大きく受けたため、目標未達成となった。</p>
-----------	--

今後の改善方策	<p>コロナ禍が続くなか、安全面に配慮しつつ、実施可能なイベントを積極的に開催する。例えば、ビニールパーテーションを設置してのコンサートやワークショップ、民家を利用した市民展示や企画展示、民家のバックヤード特別公開等。また、感染状況に臨機応変に対応可能なHPやFBを活用した広報に重点を置き、四季折々の花の風景等の写真をFBにアップし、府民の方々に癒しの空間を提供できることをPRする。</p>
---------	---

■ 目標値未達成の要因について

〔5〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
館外事業の参加者数	人	49,600	36,197

未達成の要因と分析	<p>コロナ禍の影響により、小学校への出前授業が学校側からの申し出によってキャンセルが相次ぎ、出張講座やワークショップ等についても感染防止のために多くが中止を余儀なくされたことから、約6,900人の利用者を減じた。また、出張展示に関しても、コロナ禍の影響に加えて展示先の臨時休館も重なり、参加者が約6,600人減少した。</p>
-----------	--

今後の改善方策	<p>コロナ禍が続くなかあって、インターネットによる情報提供など、新しい生活様式に則った形での展開を行う。 また、状況が改善されるようであれば、これまで通りの事業を安全に配慮しつつ展開するなど、ハイブリッド型での館外事業を模索していく。</p>
---------	--

〔6〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
利用者一人あたり経費	円	1,746	2,240

未達成の要因と分析	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による各館の入館者減、同様の要因による館外事業の減少に伴う館外利用者数の減が一人あたりの経費を押し上げている。</p>
-----------	---

今後の改善方策	<p>インターネットによる館蔵資料や館内の様子を随時紹介するとともに、企画展・特別展の解説動画の配信を行う。これにより、各博物館の個性や魅力を効果的に発信し、広く博物館を周知するとともに来館を促す。</p>
---------	---

■ 目標値未達成の要因について

〔7〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
埋蔵文化財調査担 当者 一人あたりの 調査面積	㎡	6,400	4,421

未達成の要因と分析	<p>下半期に予定していた大規模民間開発事業（約 1 万㎡）がコロナ禍の影響で中止になったことに加えて、小規模調査や事業用地の制約から調査区を分割して進めることを余儀なくされた例が多く、前年度までのように比較的多量に集まった面積を効率よく手掛ける調査案件が減少した。</p>
-----------	---

今後の改善方策	<p>令和 3 年度の見通しとして、発掘調査量が少なく、遺物整理事業の割合が大きいなど、年度によって発掘調査の多寡が生じることは致し方のないところであるが、中長期的な視座に立ち、埋蔵文化財調査事業量の安定的な確保に向けて、国・府関連の公共事業のみならず、市町村の公共事業や民間開発事業も含めて情報収集を行い、事業の受託に繋げるよう努める。</p>
---------	---

〔8〕

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
当期経常増減額	千円	0	▲117,590

未達成の要因と分析	<p>下半期に予定していた大規模民間開発事業に伴う埋蔵文化財調査事業（約 1 万㎡）がコロナ禍の影響による事業者の業績悪化のために中止となった（積算17,425千円）。また、西日本高速(株)の敷地に建つ中部調査事務所を令和 5 年度末をもって廃止・撤去する方向性となったことから、減価償却期間が大幅に短縮され、これにより資産除去債務ならびに減価償却費を大幅に増額（約97,865千円）したことによってマイナスが膨らんでいる。</p>
-----------	--

今後の改善方策	<p>今後2か年に関しても中部調査事務所に関わる減価償却費等の増額が必要となり、会計上の収支相償は困難な状況が続くが、コロナ禍のなか、開発事業の情報収集に努め、埋蔵文化財調査事業の積極的な受託を行い、償却費増額分を除いた実質的な収支相償を目指す。</p>
---------	---

■ 目標値未達成の要因について

[9]

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値
賛助金・寄附金	円	1,900,000	1,026,581

未達成の要因と分析	<p>コロナ禍により賛助会員である企業の業績も悪化し、休止の申し出のあった2社のうち、1社は減額対応となったが、1社は休止となった。また、新型コロナウイルスの感染拡大以降、入館者数が大きく減少したことから、個人からの寄付金が低迷したことも大きく影響した。</p>
-----------	---

今後の改善方策	<p>現在の賛助会制度は堅持しつつも、令和2年度から実施している国指定重要文化財「信濃秋山の民家」の大規模補修工事費の補填を目指すクラウドファンディングのような取り組みを継続して実施し、日本民家集落博物館の幅広い認知と、より多くの方々からの支援を得られる方策を講じる。</p>
---------	--

[1 0]

R 2 年度の 成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値	R 2 年度の実績値

未達成の要因と分析	
-----------	--

今後の改善方策	
---------	--